

(11月6日15時からの貿易通商問題セッションでのスピーチ原稿)

ご臨席の皆様、本日は私のワイン輸入ビジネスで最近経験した小さな事件をお話できることを大変光栄に存じます。

私は、この春、クラスノダール地方、アナーパという町にあるワイナリー「シャトーグランボストーク」と知り合うことができました。

早速、7月には私自身がこのワイナリーを訪ね、すぐさまこのワイナリーを気に入るようになりました。そこには、ワインづくりの情熱とともに、ワインづくりに欠かせない技術、そして、ブドウを育む豊かな自然がありました。

すでに皆さんはご存知と思いますが、クラスノダール地方はワイン作りの長い歴史を持っています。しかし、世界のワイン市場で、クラスノダール産ワインは、グルジア産、あるいはモルドバ産ワインに比較すると、ロシアで最近両国からのワインの禁輸措置が実施されるまでは、ほとんど注目されることはありませんでした。

シャトーグランボストークの人々は、グルジアとモルドバからのワイン輸入を禁じてくれたロシア政府に感謝しなければならないと思います。グルジアからのワイン輸入は引き続き継続されていますから。

私のワインビジネスは、イタリアからワインを輸入し、それを少量づつ業務用酒販店に販売することです。イタリアからのワイン輸入に際して、私はイタリアのフォワーダーを使い、8から10パレット分の複数のワイナリーから購入した多くの種類のワインを20フィート海上コンテナに詰めます。これをイタリアではグルパージュといって、少量多品種のワインの輸送方法としては一般的です。

この方法で私は多くのワインを輸入しているので、少量のシャトーグランボストークワインの日本への輸入に際しても同じ方法をとろうと思いました。もちろん、この考えの裏には、シャトーグランボストークの財務責任者であるエレナ デニソバさんの、今回、RBC 東京コンフェレンスのテーブルに自社ワインを是非置きたい、という熱意があったことを認めねばなりません。

しかるに、残念なことにこの計画は次の理由により、実現しませんでした。

1. モスクワからナホトカまでカバーできるフォワーダーで、かつナホトカで通関し、また、横浜行きの貨物船に搭載し、それらの経費を一括してワイナリーに請求できる複合輸送フォワーダー兼通関ブローカーがタイムリーに見つからなかった。
2. モスクワ-極東港の輸送において、ワインの品質を確保するためのリーファー輸送コンテナのサービルが見つからなかった。

3 . 日本政府が海外からのワイン輸入に際して要求する化学分析証を英文で発行できるロシアの国家認定の研究所が見つからなかった。

このような理由より、シャトーグランボストークワインを商業ベースで輸入するという今回のアイデアは、頓挫せざるを得なくなりました。

これは私が経験したほんの小さな問題です。 したがい、このような経験から物事を一般化することは誤りにつながりますが、ひとつだけ感じたことを申し上げると、ロシアは商品の輸入ということに対しては大変慣れているが、自国産品の輸出ということに対してはまだまだ意識が遅れているということです。 ロシアはそろそろ自国産品を海外マーケットで売るための諸問題を考えるための国家組織を持っても良い頃ではないでしょうか。 ちょうど、日本にはJETROがあり、韓国にはKOTRAがあるように。

最後に一言だけ申し添えたいと思います。

今回、この会議の席上でシャトーグランヴォストークワインをご覧になることはできませんが、皆さんは銀座にある私のワインバーHIBINO1882 にてそのワインを試飲していただくことができます。

皆様のお出でかけを私はお店でお待ちしています。

ご静聴、まことにありがとうございました。

(有)スガハラアソシエーツ 代表

(株)日比野ワインズアンドスピリッツ 代表取締役

菅原信夫